

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700426		
法人名	株式会社介護ケア道央		
事業所名	グループホーム めくもり 1階		
所在地	〒068-0115 岩見沢市栗沢町最上293番地1		
自己評価作成日	令和4年10月6日	評価結果市町村受理日	令和5年5月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『ありのままに ゆとりとめくもりのある暮らし』の理念をもとに、家庭的な雰囲気の中で、ご本人のペースに合わせた達成感や生活感のある生活を送っていただいています。広い敷地を活用した外作業やゆっくりと日向ぼっこや外気浴・感染状況を踏まえてドライブなどに出かけることもあり、参加活動の充実を図りながら、体力の維持や気分転換が出来る機会を多く取り入れ、コロナ禍でも閉じこもりのない生活を送っていただいています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyCd=0175700426-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和4年11月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、栗沢町内の高台にあり、幹線道路沿いでバス停、JR駅から徒歩圏内で緑豊かな環境に位置しながら、近隣には公共施設やコンビニがある生活に至便な環境下に立地している。敷地は広く、駐車場を挟んで同法人系列のグループホームがあり、相互に利用者の安全安心に努めている。運営法人は長年、岩見沢市内において介護事業を担ってきたことから、介護の実体と現状を熟知しており、法人の介護基本理念のもと、原則に徹した介護方針と実践に努めている。また、要望があれば終の棲家として暮らし続けられる環境にあり、利用者・家族からは、事業所のコロナ感染防止対策の徹底や、外出が難しい現状においての心身の機能維持に関する工夫、利用者本位に選択するケアを基本とした配慮ある支援が好評を得ている。春以降は、相互に自粛傾向にあった事業所、地域行事への参加や、地域との協力体制を再構築し、地域福祉の向上に向けての計画があることから、その進展が望まれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念・運営理念の意義を全職員が理解し実践できるように取り組んでいます。毎年理念に向けたサブ目標を掲げ、日々意識したケアを心がけ取り組んでいます。	法人の基本・運営理念を基に、職員が意見を出し合って作成した年間のサブ目標を掲げ、日常的に共有している。また、その達成度について職員会議の場で検証、協議しながら、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しています。コロナ禍のため地域行事への参加機会が減っていますが、馴染みの関係が継続できるように、近所に買い物へ出掛け挨拶を交わすなどの関係が築いていけるように支援をおこなっています。	相互に往来を自粛しているが、通例では地域代表の運営推進会議への参加や、災害時の相互の協力体制等、関係の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症サポーターを受講し、地域の方々へのサポートが出来ればと思っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年に6回開催し、ご家族には毎回議案書を郵送しています。利用者の状況報告・施設の問題などを話し合い、サービス向上に努めています。	コロナ禍であるが、市担当窓口の協力を得ながら、定例で開催している。運営状況や行事報告、現状の課題等を挙げ、参会者から意見を求め、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者にグループホームの現状や検討事項を報告して理解と協力体勢を築いています。運営推進会議にも参加していただき、積極的な関係を構築しています。	市、地域包括支援センターから情報提供・アドバイスを得ている。また、包括主催の活動への協力や運営状況、事業所での取り組みについて報告し、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	系列事業所と合同で身体拘束廃止委員会を3カ月毎に開催し、ミーティング時に内容を報告して周知しています。全職員が身体拘束の意味を理解しケアに努めています。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、虐待も含め、具体的な事例を職員間で協議し、改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の虐待研修などにも積極的に参加し、身体拘束廃止委員会を兼ねて虐待防止委員会を開催し、グレーゾーンに属さないケアに注意をするように努めています。また管理者は、職員のストレス要因に気を配り、頑張りすぎないケアの声掛けを取り入れています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用している方が1名・自立支援制度を利用している方が1名います。管理者が中心となり対応しているため、他職員が理解し活用することが難しいのが現状です。今後機会があれば適宜説明しながら制度を学んでいく必要性があると思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての事項について理解されるまで丁寧に説明し、同意を得ていただいています。契約内容以外の要望や不安な思いに対して寄り添い、可能な限り意向に応えられるよう努力する姿勢を伝えています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族との関わりの中で意見や要望の把握を心がけています。来所時や電話などで意見や要望などをくみ取りサービスの向上に努めています。	面会はガラス越しや玄関、敷地内等、多様な方法について職員間で検討し、感染防止に留意・工夫しながら、弾力的に再開し、意見聴取の機会を持っている。担当者によるお便りで、生活状況・健康状態、気付きについて、詳細に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や職員の日常的な気付きをその都度聞き入れ反映できるように心がけています。施設長との面談の場を設け、労働環境や処遇改善に努めています。	月例の会議や日々の申し送りの場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、定例で施設長が面談を行い、個別の意向、提案の聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	サービス残業ゼロを目指し、日々業務内容を調整・検討し、職員の希望休みなども考慮できる体勢を作っています。向上心を持って働いていけるよう資格取得への支援もおこなっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、不安などを相談しやすい関係作りを努めています。コロナ禍のため外部研修参加へ機会が減少しているため、施設研修でのオンライン研修を導入し、全職員が学べる機会を整えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協会に加入し、管内のグループホームとの情報交換などもおこなっています。また、当事業所3グループホームでは密に情報交換をおこない、日々サービスの向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人との面接をおこない、生活状況の把握に努めています。一人ひとりが安心してサービスを利用できるように、その人の視点に立って柔軟に対応出来るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネより情報提供を受け、相談時や初回面接時に、ご本人・ご家族より要望や不安を聴き入れ、入所時のリロケーションダメージを最小限に抑えることができるように連携を図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況を見極め、医療機関や他の専門機関などの意見も参考に、支援やサービスを取り入れていけるように取り組んでいます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の個性や生活歴を大切に、ご自分で出来ることは可能な限りご本人にさせていただき、出来ないことをサポートし、共に寄り添い笑顔で暮らしていけるような信頼関係づくりを心がけています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため、ご家族様との面会制限などをおこなっていますが、毎月のお便りなどで情報を伝え、体調の変化などがあった場合は電話などで近況報告や心身の変化などをお伝えし、共に支え合える協力関係を目指しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会などの制限をおこなっていますが、出掛ける際は地域や懐かしい場所を巡り、生活歴やご利用者の要望に応え馴染みの関係継続への支援をおこなっています。	コロナ禍により、現在は外出が困難となっているが、電話の取り次ぎやお便りを発行し、近況を伝える事で、それまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係や状況を見極めながら、会話を楽しめるように席の配置を考慮しています。孤立しがちなご利用者を注意深く見守り、職員が調整役を担っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご利用者のご家族より近況報告や、いつでも気軽に来訪していただけるように声掛けをおこなっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の思いを上手く表現出来ないご利用者も多いため、日々の関わりの中で思いを推し測れるように努めていますが、困難な場合も多いので、ご家族に意向を聞きながら、ご本人の立場に立って検討するようにしています。	利用者本人より終末期の意向も含め、思いを聞き取り、記録・共有している。家族からも情報を得て、定期的にはアセスメントを行い、プラン化に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時やご本人との会話の中から聞き取った情報や、ご家族からの情報を追加しながら、生活歴や生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活歴や生活のリズムを把握し、その人の心理状態を見極め支援をおこなっています。その人の残存能力に視点を置き、心身の維持・向上出来るように支援しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中から思いを把握し、アセスメントをおこなっています。ご家族の意向も計画に反映出来るように事前に確認し、4カ月毎に見直しをおこない、変化時に即した計画を作成しています。	職員相互でモニタリング結果を検証し、本人・家族の要望や主治医からの意見を考慮しながら、短期目標・計画を作成している。また随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別サービス記録に内容の実践・取り組み・気づきなどを記入し、職員同士で情報を共有して介護計画の作成に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアをおこなうにあたり、一人ひとりに合ったサービス提供を心がけています。マニュアルに束縛されず柔軟性を持って個々の希望や要望に寄り添ったサービス提供に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため活用できるサービスを見極めることが難しいですが、地域の公園などを利用し、心豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	基本的にはご家族様対応での受診となり、添書などで支援をおこなっています。ご家族の都合がつかない時は職員が対応し、結果を報告し情報共有をおこなっています。現在訪問診療を利用されている方もいます。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援している。訪問診療による受診や、訪問看護による健康チェックがあり、個人記録を作成し、家族、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護の体制を整えており、日常の様子や変化などを報告し、気がかりなことは随時相談でき、緊急時には電話での対応やアドバイスを受ける事ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には同行し、介護添書で情報伝達をおこなっています。退院時も退院に向けての支援や退院後の生活についてなども相談するようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化に向けた支援についての説明をおこない、緊急時の対応についての同意を得ています。見取りの経験はありませんが、ご本人より終末期の要望を伺う機会を設け、少しでも長く尊厳のある生活が送れるように支援をしています。	契約時に指針を文書で説明し、同意書を得ている。また状況に応じて、医療機関を含めて話し合い、本人や家族の意向に沿って介護できるように、職員間で情報共有に努め、尊厳ある生活となるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全職員が普通救命講習を受講しています。急変時に対応出来るようマニュアルなどを作成し、自施設研修でロールプレイなどもおこなっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間及び地震災害に備えた複合的災害訓練を消防署の指導の下におこなっています。災害に備えた業務事業計画も作成中で、今後も災害に備えていきたいと思えます。	火災、自然災害を想定した防火訓練を定例で実施している。地域町内会、本社、法人の他サービス事業所との協力体制、役割も含め、話し合いを行い、備蓄も確認しながら、不意の災害に備えている。	自然災害を想定した避難訓練のさらなる充実と、避難場所の定期的な家族、関係者への周知を計画している。その進展に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であっても一人ひとりの人格を否定せず尊重するように努めています。自尊心を傷つけないかなど常に振り返りの機会を持ち、言葉遣いや態度に気を付けるように、職員に定期的に周知しています。	職員は、接遇が介護の基本であることを理解し、声掛け、トイレ誘導や入浴時の対応を丁寧に行う等、尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの気持ちや思い、生活歴なども重視し自然に表現できるようなケアを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課的な部分はありますが、強制することなくご自身のペースで生活していただき、一人ひとりの生活のリズムを大切に出来るように、職員間で連携を図っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみに目を配り、天候や季節感などのコミュニケーションを取りながら、個々の意見を重視し、整容などの支援をおこなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日「美味しい！」と笑顔が見える食卓を心がけ、季節を感じていただける食材の準備や会話を盛り込みながら、月に1度は外食や出前を取り入れ楽しんでいただいています。	献立は利用者の希望を取り入れており、季節感・彩りを大切にしている。可能な利用者には配膳準備・片付けなどを手伝ってもらい、楽しみながら力を活かせるよう支援している。外出が難しい現在は、行事食、出前で外食気分を楽しめるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べることは健康のバロメーターと考え、食事量や水分量を記録し個々の把握をしています。体調や状況に合わせて形状や助持具なども検討し提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔状態に合わせ、毎食後ご本人の能力に合わせた支援をおこなっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適宜ご本人の排泄パターンに合わせた支援をおこなっています。尊厳やプライドを傷つけないように配慮し、肌衛生を基本に職員間で話し合い対応しています。	個々のタイミングを時間で把握し、声掛けを工夫しながらトイレへの誘導を行っている。羞恥心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをおこない、腸の蠕動運動を促すために、起床時などに水分摂取の声掛けや毎日適度な運動を取り入れ、便秘予防に努めています。医師に相談し、排便薬で調整されている方もいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴日を設定していますが、希望や状況に応じて対応しています。個々のペースに合わせて入浴していただき、職員との会話を楽しみながら、身体確認の出来る大切な場面だと考えています。	時間帯や湯温、入浴方法等、利用者の希望に応じて、快適な入浴となるよう支援している。同性介助の希望も聞き取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムに合わせています。眠れない方は職員と一緒にお茶やテレビを見たり、臨機応変な対応を心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬説明書をファイルに綴り職員がいつでも閲覧できるようにしています。また、薬の変更があった場合は、医師に効果や副作用を確認し、申し送りの際に職員に周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の出来ることを活かして役割の分担を担っていただいています。やりがいを感じ、楽しみや生きがいを実感していただけるように支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出する機会が減っていますが、天候をみて駐車場で外の気浴や散歩を楽しんでいただいています。突発的なドライブや、四季を楽しんでいただくために計画的なドライブなども感染状況をみておこなっています。	通例では、家族の協力も得ながら外食や買い物・季節の行事・ドライブ等を楽しんでいる。現在は感染防止に留意しながら、事業所敷地内や近隣の外気浴、体操等で気分転換、筋力低下防止に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持しているご利用者には買い物の支援をおこなっています。現金を所持していない方にも立替購入などの対応をおこない、買い物の楽しさや満足感が得られるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、いつでも電話を掛けられるようにしています。携帯電話を所持している方もおり、ご本人の状況に合わせて対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の整理整頓を心がけ、居心地良く過ごしていただけるように努めています。定期的に換気や消毒・除菌作業をおこない、各フロア空気清浄機を備えて、感染対策も徹底しています。	リビングは採光が良く、温湿度が適切に保たれた解放的な作りとなっており、四季を感じる作品や行事の写真で飾られている。事業所内は感染防止対策として、換気、除菌消毒を徹底しており、共同生活の場として面会を制限せざるを得ない現状においても、事業所としての方針を周知し、家族に理解を求めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで気の合ったご利用者同士話したり、各々の居心地の良い場所で過ごしていただいています。雑音が心地よくソファで横になってうたた寝をする方もいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごしていただけるように、使い慣れた私物を持ってきてもらっていますが、ご本人の様子や状況などの変化をご家族と見極めながら、危険物などと判断し撤去する場合があります。	居室には家族の協力を得ながら、昔馴染みの家具や小物・写真等が持ち込まれており、自分の部屋として安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、手すりなども設置しています。個々の状態に応じ適宜検討し、安全に生活が送れるように工夫しています。		